

## 今月の最新ニュース

### 「タイにおける航空機産業の現状と今後(1)」

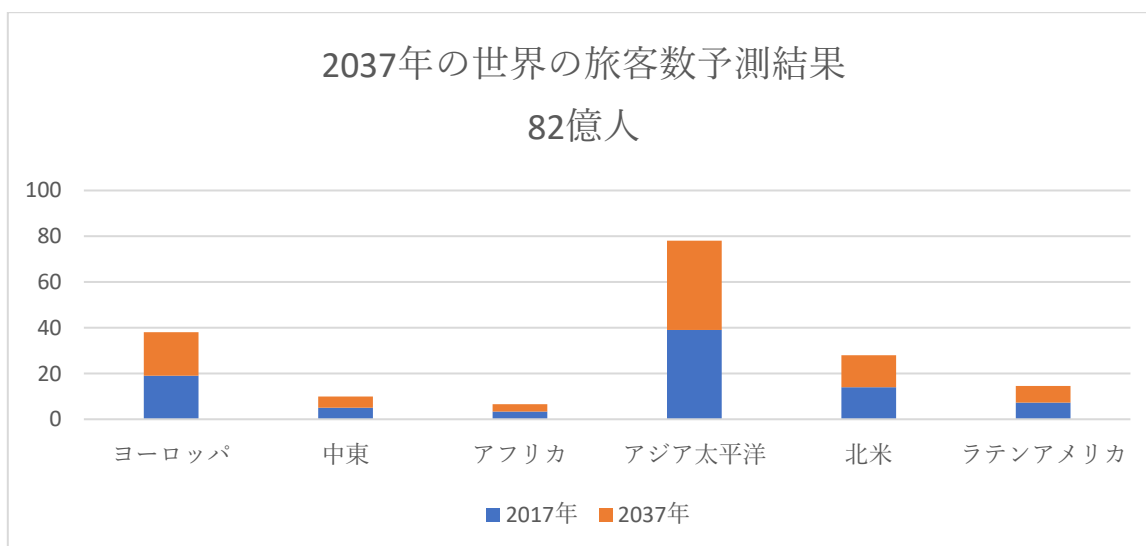
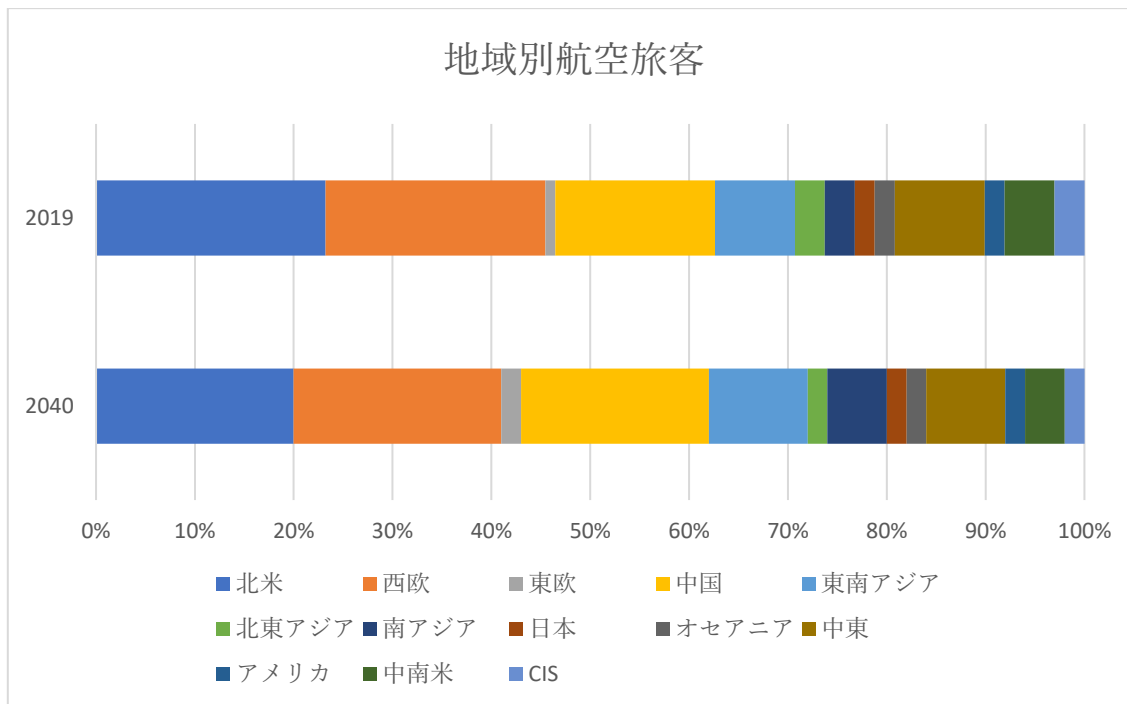
皆さんもご存じの通りタイの製造業と言えば自動車を中心ですが、数年前から次なる産業として、航空機産業・医療機器・EV車といった産業が注目を集めています。そこで、今回のレポートから複数回に分けて、タイにおける航空機産業の現状と今後についてお知らせします。まずは、航空機産業の市場推移を把握するために、世界とアセアンの旅客数の推移をテーマにレポートします。

新型コロナウイルス前の2019年と比較すると、2021年の世界の航空旅客数が49%減の23億人となっています（国際民間航空機関（ICAO））。その結果、航空会社の損失規模は、21年は合計3240億ドルとなっていますが、2020年（3720億ドル）比では改善が見られています。なお、航空旅客数は30年には56億人と21年比で2倍以上となるとされており、それ以降も更なる拡大が期待されています。

旅客需要の回復の見通しは、21年はコロナ禍前（2019年）の約半分まで戻るとされています。2022年が約9割、2023年にはコロナ前の水準を5%超えると予想されています。2023年以降も回復・拡大傾向となりますが、コロナ禍によるビジネス様式の変化に伴う「リモートワークの定着」・「海外出張の機会の減少」などの影響で、当初の予測よりも7%下回ると予想されています。

アセアン地域に目を移すと、他の地域と比較して回復レベルが弱いのが現状です。国際航空運送協会（IATA）によると、2019年のレベルに回復するのは2025年（109%）と予想されています。短期的にみると欧米と比較して市場規模の拡大が遅れているように感じますが、2040年には欧米が2-3%のシェアを失う一方で、アジア・アセアン地域のシェアが7.3%拡大されるとしています。また、タイ単体では旅客数で世界9位になるとされています。

コロナ禍の影響で成長が鈍化されてしまいましたが、今後、航空業界は確実に毎年成長を続けることとなります。この拡大を背景にタイ国内における航空機産業、特に航空機メンテナンス分野の成長が期待されていますので、次回のレポートでは、同分野の現状についてお伝えします。



**大阪産業局 タイビジネスサポートデスク**

**株式会社 NC ネットワーク(タイ: NC BIZ CENTER (THAILAND) CO., LTD.)**

日本事務所：東京都台東区東上野1丁目14番5号 ユーエムビル8階

タイ事務所：142 Two Pacific Place Unit 1101 11F, Sukhumvit Road,  
Khlongtoei, Khlongtoei, Bangkok 10110 THAILAND